

小泉八雲・セツのドラマをイカしてバケる松江推進協議会 第3回総会記録

■日時:令和7年8月29日(金)10:00~11:30

■場所:松江市役所西棟5階 防災センター

■出席者:23名中 18名(会長欠席。代理出席4名、前田氏途中退席)

オブザーバー2名(うち代理出席1名)

アドバイザー1名

※出席者詳細は名簿のとおり

1 開 会

2 副会長挨拶

花形副会長

※会長である上定市長が急遽欠席のため、協議会設置要綱第5条2項の規定により副会長に
会長職務を代理いただいた。

3 アドバイザー挨拶

小泉凡氏:

個人的な近況になるが、現在ばけばけに関連した出版が約30~40あり、そのうち多くが監修や執筆の依頼を受けており、今それが少しピークを過ぎたところ。9月までにはほとんどの出版物ができあがるという状況だと思う。その中には、「現代思想」というすごく真面目な雑誌が臨時増刊号を出し、小泉八雲の特集を計画されたり、最近では女性雑誌・週刊誌の取材が増えてきたりしており、先日は「女性自身」の取材を受けた。立て続けに女性雑誌、来月に入ってから週刊文春の取材がある。日頃、小泉八雲記念館に平均して1日約70件のメールがくるが、それが今、ほぼ全部(取材)依頼のメールである。予想・想像を超えた反響に驚いている。

様々な分野に波及しているなどありがたく感じると同時に、この度の(ばけばけの)影響かなと思っている。皆様もお身体ご自愛し、「化け化け」にならないよう、今後もよろしくお願いしたい。

4 議事

進行:花形副会長

<資料説明:松江市観光振興課小泉八雲・セツのドラマ応援室 大島室長>

(1) 協議会委員の変更(案)について 資料1

質疑なし→全員承認

<新任委員を代表しオブザーバーよりご挨拶>

皆川氏：

7月1日に前任の増田に代わり NHK 松江放送局の局長になった。

連続テレビ小説「ばけばけ」に関連して地域を盛り上げるために多くの皆様にお集まりいただいていることに責任を感じるとともに、自身も頑張っていけないと感じた。
よろしくお願いします。

<以下、説明：松江市観光振興課小泉八雲・セツのドラマ応援室 後藤主幹>

- (2) 令和7年度協議会事業報告(案)について 資料2、資料2別紙
- (3) 令和7年度協議会事業計画(案)について 資料3
- (4) 令和7年度協議会収支予算書(案)について 資料4
- (5) 協議会スケジュール(案)について 資料5

<ご質問・ご意見>

金川委員（松江商店会連合会 副会長）：

資料3の最後に記載のある関連事業「小泉八雲ゆかりの地案内看板」の件でお願いしたいことがある。皆さんの手元に「松江京店商店街マップ」を置かせていただいたので参照いただきたい。小泉八雲が松江に来て最初に「富田屋旅館」に宿泊しその後に「織原別邸」で住まわれた。このことを示す石柱が現在の「庭園茶寮みな美」の特別室のところに立っているが、実際に住まわれた「織原別邸」の場所はここではなく、このマップの④「湖鳥」のあたりの穴道湖に面する建物であった。つまり石柱の設置されている場所と実際住まわれた場所が異なっているので、観光客の誤解を防ぐためにも、可能ならば石柱に「実際の土地はこちら」のような案内をつけていただけるとありがたい。前向きに検討を願う。
→後藤主幹 ご提案いただきありがたい。具体的な取り組みを検討していくワーキング会議の中で今回いただいたご意見も検討していきたいと思う。

植田委員（松江旅館ホテル組合 組合長）：

今回ばけばけを通してまず松江をもっと知っていただいて、たくさんの人に来ていただく、ばけばけが終わってからも来ていただく。小泉八雲をとおして「日本の根本にある松江」を地域の人たちも知っていただくことが大切だと思う。そういうことが地域のアイデンティティになり今後の地域のポテンシャルになり、外国人を含めた人々が松江に来てくれるのではないかな。

そのためにも、プロモーションの部分が弱いようで気になる（受入対策はいろいろとされていると思うが）。予算的には2700万円がプロモーション費とされているが具体的に何をされているのか中身を知りたい。やはり県外に行ってプロモーション・PRをするのが大切だと思う。

う。ここに書いてある東京・中部プロモーションは具体的にどんなことをされてるのか。予算が足りないなら差し替えをしてでもプロモーションするべき。いくら受入体制をよくしても人が来てくれないことには。

→大島室長：具体的な内容は今、申し上げられないが、今後ワーキング会議の中で具体的な事業を決めていく。これまで市内の受入対策・機運醸成に注力してきたので、ここからはプロモーションにも注力する。なお、県外に向けては島根県が対応するなど役割分担をしている。引き続き県とも連携しながらと思っている。具体的な事業内容はまた説明させていただければと思う。

→植田委員：例えば民間・官と一緒にチームを作る、というのは、今回だけでなく今後も観光振興のために非常に有効だと思う。ばけばけがそのきっかけになると思う。そしてこれが機能するために、一緒に活動し汗をかくというのが必要。キャラバンは、ありきたりであるが効果がある。団体旅行やエージェント向けでやることが多いが、例えば地方のNHK放送局などへ松江の宣伝に行かせていただき、プラスで地方紙などマスメディアにも行かせていただいて記事にしてもらう。これらをチームでやることで露出度が高まる。また、例えばPRTIMESさんは一回三万円で投稿できるなど、お金をかけなくてもできることはいっぱいあるので、プロモーションの質を高めて松江を知っていただくことをぜひ検討いただきたい。

米山委員（松江市公民館長会 城北公民館長）：

公民館として小泉八雲・セツを知ってもらう講座等の開催に取り組んでいることについて報告したい。資料にある城西・川津公民館だけでなく城北公民館としても講座や、こども向けの紙芝居を実施し、それぞれの公民館で講座やゆかりの地めぐりなどを行っている。全部で29館の市内公民館のうち15館で実施済みで、予定している箇所もある。公民館としてはそういったことを通して小泉八雲・セツを知っていただくように努めている。

定秀委員（美保関旅館組合 組合長）：

美保関でも、のぼりやポスターが青石畳通りにずらっと並びムードが出てきている。美保関は小泉八雲が好んだ街で、滞在され書籍にも残されているので、周遊マップ等出されるときには、ぜひ美保関もそのように載せてもらえるとありがたい。

→大島室長 もちろんである。美保関方面にもめぐっていただけるよう取り組みを一緒に進めさせていただきたい。

植田委員：

先般、「雪女」の語り部イベントや「闇夜のツアー」ということで歴史館・松江城を借りてイベントをさせていただいた。これは1回目20名あまり参加いただき、ほぼ県外・東京等からの観光客で、このために来てくださったという方もおられた。小さいイベントでも効果は出るし、話題性もある。一社だけでなく数社で束になることが大切。

→大島室長 本日の資料に「私たちの事業が載ってない」という方もおそらくいらっしゃると思うが、事務局も把握しきれないところもあるので、積極的に教えていただけると、プロモーションや発信が可能なので共有を願う。

→花形副会長 事業等あれば適宜事務局へ資料をお送りいただき、PR や誘客につなげていけたらと思うのでよろしくお願いします。

これ以上の質問・質疑はなし→全員承認

<委員より一言ずつ発言>

大塚副会長（一般社団法人松江観光協会 専務理事）：

毎年5～10月まで「松江ゴーストツアー」を開催しているが、毎回上限の14名まで来ていただいて大変好評を得ている。語り部不足も懸念はあるが、募集して育成し確保しようと努めている。県外からもたくさん来ていただいているので、しっかりとゆかりの地を巡っていただけるよう力を入れていきたい。また先月、犬山市の明治村に行ってきた。そこに山口乙吉さんという焼津で魚屋をしていらっしゃった方の自宅が移築されていて、この2階に小泉八雲が晩年、毎年滞在したそう。明治村は日本の誇る明治期のいろいろな建物があり、そこでこの建物が大切にされていて、しっかりと小泉八雲の紹介もされていて賑わっていた。ここにも（八雲の関連で）たくさんの方が全国から来ているのでこういったつながりを生かして、ばけばけを機に松江の地をPRするといいと感じた。

錦織委員（一般社団法人八雲会 専務理事）：

小泉八雲記念館・旧居の状況だが、去年は対前年で、40%ほど増えていたが、今年はさらに記念館～7月で約20%、旧居は約40%増えている。団体の予約も好調で10月中旬～12月中旬は、連日数件の予約が入るという状況。来客の様子を見ていると、ばけばけのことを知って訪問しているような会話が聞こえてくるので、さらに後押しするようなPRが非常に効果的だと思う。また事業計画で載せていただいているが、9月中旬頃にはホームページ上で予約システムを公開する予定で、10月分からの予約を受け付ける。このシステムの存在を知っていただくことが大事なので、関係団体でのPRも協力いただきたい。入館者数の増加が見込まれるので、受入体制等も充実させつつスムーズな観賞ができるよう努めてまいりたい。

影山委員（公益社団法人松江青年会議所 理事長）：

ばけばけに関連した事業を9月に行う計画で進めている。市民や県外からこられた方も楽しんで小泉八雲・セツに触れていただきたいと思っている。誘客についてもっと力を入れなないと感じ、その中で特に気になったのがSNSの運用について。協力できることがあればさせていただきたい。

黒田氏（島根経済同友会 事務局長 福島委員代理）：

経済同友会で10月24日に西日本大会を松江市で開催する。県内外から400名以上が参加予定。翌日エクスカッションとして、ばけばけにちなみ、松江市の観光もプログラムを組んでご案内している。次に、先日出張へ行った際（島根県に報告したほうがいい話ではあるが）出雲空港のお迎え側ではばけばけのPRが出ていたが、出発側からは直接見えず、裏側になっていた。やはり両面見えたほうがいいのでは。米子空港でもPRされていると思うが、気になった。あと、小牧空港でのPRが足りなく思った。せっかく出雲空港と繋がっているのので、是非ともそのつながりでのプロモーションを検討されては。

金川委員：

京店商店街で9月27日（白潟の土曜夜市最終日かつ水燈路の初日かつばけばけが始まる2日前）に、堀川遊覧船の夜間運航を堀川遊覧船さんと共催で進めている。10年前に1回やっているが、夜に楽しむスペースがあると観光客の宿泊も増えていいなという思いで計画した。京店の乗船所からみしまや内中原店の方まで行き、Uターンして戻ってくるコースで、18時半から21時ぐらいまでという想定で検討中。語り部に乘っていただき、小泉八雲・セツの話や怪談をしていただく。1人2000円で商店街の商品券500円つきの予定。京店商店街としての開催はこの日限りだが、地元の方にも県外の方にも魅力的なイベントだと感じており、ばけばけを盛り上げていきたいと考えている。ブラッシュアップしていき商店街としては、定期的に開催されるようなイベントになるといいなと思っている。

米山委員：

引き続き小泉八雲・セツを知っていただくような取り組みを全29の公民館はしていきたい。

藤井委員（松江市小学校長会 事務局長 松江市立雑賀小学校長）：

ご説明の中で給食の話が出たが、こどもたちはとても楽しみにすると思う。小学校では（小泉八雲・セツの人物像についてももちろんではあるが）八雲が書いたお話を中心に、こどもたちは読み語りや紙芝居を通じて親しんでいる。こどもたちにとってインパクトがあるのは、お話そのものやそこに出てくる雪女などの登場人物・お化けたちである。こどもたちに松江で自慢できるものは何かと訊ねたときに、松江城・宍道湖、そして小泉八雲となっていくとすれば、やはりスタートは八雲が書いたお話になると感じる。（学校でそれを大々的にやるわけではないが）ハロウィンのイベントもこどもたちに人気。これになぞらえて、例えばこどもたちが化けたりするような親子で参加できるような企画でもあったら、こどもたちの間でも（ばけばけが）盛り上がっていくのかなと思った。

大西委員（山陰ケーブルビジョン株式会社 番組ディレクター）：

ばけばけ放送開始直前に期待感を盛り上げようという目的で、9月20日放送予定で30分の特番の準備を進めている。内容としては、①お笑い芸人のネルソンズ三人が「怪談・食・

縁」をキーワードに松江市内の八雲・セツのゆかりの地を珍道中、②凡先生とばけばけの制作統括の橋爪氏の対談、③高石あかりさんとトミー・バストウさんの単独インタビュー、といった形で進めている。この番組は県内だけでなく、全国のケーブルテレビ協議会のネットワークを通じ全国にも発信する。また、お二人のインタビュー部分以外については Youtube での配信も予定しているのでぜひご覧いただきたい。また、事業計画にある案内看板の件についてだが、小泉セツの生誕地と、養女に行った稲垣家の場所の案内看板がない。ばけばけが放送開始前に、ぜひそのことがわかるようなものを設置していただきたい。

高木監事（公益財団法人松江市観光振興公社 専務理事）：

小泉八雲・セツについて改めて学ぶため、6月末に凡先生に全職員レクチャーをいただき、乗船客のおもてなしに生かしている。また先般夏休みに「堀川ゆうれい船」という、こどもたちが船上で落語をするという企画を地元の会社が企画され、コラボさせていただいた。4回開催したが盛況で、落語家のこどもたちも非常にやりがいがあったようだ。また、京店商店街さんからのお話もいただき、9月27日に向け準備を進めている。その他、直接ばけばけと関連はないが遊覧船とコラボして何かやりたいというお話を今年度に入りたくさんいただいている。9月には、ばけばけも取り入れながら遊覧船の屋根（広告スペースとしてお貸しする制度がある）をラッピングしたいという企業もある。また閑散期に向けて2、3の会社からコラボ企画をいただいております、このこともPRしつつ、グレードの高い周遊確保ができるようお手伝いできればと思っている。

皆川オブザーバー：

今週の火曜日「うたコン」という番組でばけばけの主題歌が発表された。夫婦デュオのハンバートハンバートさんが歌う「笑ったり転んだり」という曲。多くの人に愛されそうな曲であるし、プロデューサーの橋爪も「笑ったり転んだり」というタイトルも含めて、ドラマと連動したすばらしい曲だと申している。この曲も使っていただき、私どもも一緒に地域を盛り上げていけたらと思う。続いてネット配信に関して、今、NHK プラスで連続テレビ小説も配信を1週間ほどしている。NHK では、10月1日からNHKone というものを始める。このような新しいサービスも生かしながら、ばけばけをより盛り上げていけたらと思う。

佐伯氏（島根県商工労働部観光振興課長補佐 斎藤オブザーバー代理）：

（島根県観光振興課が作成された配布資料に沿ってご説明）

県内外でPRに取り組んできた。しまね観光ナビ内で八雲・セツを紹介する特設ページを4月に作成。東京・大阪の車内・機内広告も、東京メトロの半蔵門線・大阪モノレールで資料の右上の絵のような広告を出した。FDAのしまねっこ号及び黄色い機体の機内でも、PR及び機内アナウンスしている。JR西日本の協力の下、特急やくも車内や、西日本の主要駅への広告・デジタルサイネージ、また東京駅や山陰の主要駅で広告を出している。JR大阪駅でPRイベントも8月に実施（右下の写真）。またJR出雲市駅と出雲縁結び空港でも広告掲出している。空港はバゲッジクレーム（島根に入るところ）で広告を出している。先ほどご意見い

ただいた出発ロビーにもタペストリーや懸垂幕を掛けているが、目立たなかったのかもしれないので掲出方法の見直しをかけていきたい。

ポスター・のぼりについても県で作ったものを各市に配布し、また県の施設などで掲出している。パンフレットについても3月に「あげ、そげ、ばけ。」のパンフレットを2万部、7月に「島根のめぐりマップ」も作成（美保関も入っている）、これは3万部がもうなくなりそうで、（カラコロ工房で開催予定の）ドラマ展の内容も含めたものに11月に改訂する予定。旅行会社向けの冊子も作っている。

県の補助金を活用した事業もあり、既にそれぞれ説明された「堀川ゆうれい船」や「闇夜のミステリーツアー」、またJR西日本のゆかりの地を巡るあめつちのツアーなどがある。食のコンテンツについても、サンラポーむらくもの照沼料理長監修のもと「小泉八雲 縁の料理」を作っており、「八雲が愛したプラムプディング」を9月に発売予定。

本資料に載っていないことも、NHKやJR西日本、他の会社、松江市等と協力しやっていく。今後、各種SNSでのPR及び首都圏主要駅でのPRをお金をかけてする予定。また中京圏・近畿圏でもテレビ・雑誌など活用したPR、山陰両県においては、駅のサイネージや広告でPRしていく予定。機会をとらえ、やれることはどんどんやっていく。

山崎氏（一般社団法人山陰インバウンド機構 野波委員代理）：

関連した事業として、山陰の怪談や妖怪等をテーマにしたPR動画を作成しているところ。11月末頃には完成する予定で、ホームページや機構のSNS等で発信していく。相乗的なPR効果に期待している。引き続き連携していきたい。

吉川委員（一般社団法人中海・宍道湖・大山圏域観光局 理事長）：

ばけばけをきっかけにオール松江市で（観光に）取り組む機会だと感じた。圏域観光局としてもこの機会に、日御碕から琴浦・大山までの八雲・セツのゆかりの地を知っていただこうと、放映が始まる10月から半年間かけてデジタルスタンプラリーに取り組む。スポットは50ヶ所ぐらいで、スマホを使用。エリアに入って写真を撮り、Instagramに載せていただくと、1つのラリーポイントを取得できるという仕組み。ぜひ圏域を回っていただきたい。スマホのスタンプラリーということで若者・外国人がターゲット。インバウンドが全国的に増加しているが、このエリアの認知度は国内外でも低いので、ばけばけを契機に認知度があがることにも期待する。

広野氏（公益社団法人 島根県観光連盟 松本委員代理）：

しまね観光ナビで春に特設サイトを作ったのを今、改修していて、関連グルメ・おみやげ・体験等どんどん増えてきているのでこれらを新しく追加するなどし、ドラマ放送開始前に公開する。また12～3月にカラコロ工房でドラマ展（ばけばけ展）を計画している。ヒロインの全身パネルや役者のサインなど、ドラマに関する展示を行う予定。

前田氏（一畑電気鉄道株式会社 足達委員代理）：

一畑グループは観光施設も持っているが、今年は去年に比べて若干観光客が減っているという話もある。今年は万博に人を取られていたり、去年はコロナが明けたので観光客が急増えた、という理由もあるが、そういった状況でばけけには大きな期待をしている。ぜひ協力していきたい。

草原氏（西日本旅客鉄道株式会社山陰支社 和田委員代理）：

秋から観光列車あめつちも車内を小泉八雲特別仕様にして運行する。怪談を車内で放送したり、「あめつち文庫」といって車内で書籍を展示しているが、これを小泉八雲関連書籍に変える。また着地コンテンツを島根県や日本旅行とともに造成を進めている。今後は JR の媒体を使ったデジタルサイネージ広告、今後は関西エリアを中心に九州までプロモーションを実施する予定。

定秀委員：

青石畳通りに「青石畳通り」と書いてあるのぼりがあるが、今、その倍ぐらいの「あげ、そげ、ばけ。」ののぼりとポスターが並んでおり、観光客から「これ何ですか」という話題になる。「あげ、そげ、ばけ。」という言葉は興味を引くようで非常にいいと思う。また、美保館は何十年も、箸袋に小泉清さんの美保関の風景画を使わせていただいているが、これも食事のときに話題になる。そうするとやはりばけけの話につながるので、こういった地道なプロモーションも車の両輪として必要かなと思う。

新宮委員（玉造温泉旅館協同 代表理事）：

玉造温泉は真ん中に川が流れており、その西側の道路の街灯は影絵を映し込める仕掛けになっている。これを放送期間に合わせ、小泉八雲ゆかりの影絵に取り換える作業をしていて、玉造温泉に宿泊した方も少しでも小泉八雲を感じていただこうと考えている。玉造温泉は八雲・セツと深い関わりがある地域ではないが、情報共有も含め連携していきたい。

植田委員：

同級生に「筑紫哲也のニュース 23」を制作していた人がいて、筑紫氏が松江に来られたときに話したことを教えてくれた。（小泉八雲が残した「急激に西洋文化が進む中、人々の心の文化を松江は残していく」という言葉、要するに「松江は変わらない、日本が、本物が、まだ松江には残っているんだ」という言葉があるが）「松江はどうあるべきなのか」という話をしたときに筑紫氏が言ったのは、「ここ（松江）はもう変わらないことがいいことで、周回遅れのトップランナーになろうとしているから、見とけ。」と。これが 20 数年前。この筑紫氏の言葉からも、「松江は変わらない」、「日本の本物が残っているのは松江だ」と言っていると思う。今回ばけけを通して小泉セツを知っていただき松江を知っていただく。「松江は本物」ということに市民が自信を持つことが必要であるし、観光面からは外国人も

日本人も、「日本を見たけりゃ松江にこい」と、「松江には本物がある」と発信していく。ばけばけがこの機会に放送されるのも縁だと思う。松江はもっと多くの方に知っていただき来ていただき、市民もそこをきちんととらえて自信を持つ、そういうチャンスだと思う。このメンバーでぜひ意見を出しながら「周回遅れのトップランナー」を目指していきたい。

小泉アドバイザー：

塩見縄手にあまり人がいなくても、記念館に入ったら驚くほどいるということが最近が多い。15時以降に記念館・旧居にこられた方が、JR松江駅までのアクセスがなく困るという事態は昔から続いているが、ばけばけが放送開始になり、もっと来館者が多くなったときに、レイクラインは片側通行なので、（駅まで）40分ほどかかる。タクシーも3、4社電話を掛けて1社出てくれればいいぐらいの状況。急には解決しないと思うが、交通の面も検討していただければと思う。

また現在、旧居の保存活用の策定委員会が開かれていて、そこには文科相の調査官が出席されるが、先般、大学教育と連携しているところを報告して欲しいと言われた。島根県立大学と小泉八雲記念館は連携協定を結んでおり、県立大学の地域文化学科に入学した学生は1年前期に「小泉八雲と山陰」という授業を受けないと卒業できない縛りがあり、受講者全員が旧居・記念館両方を訪問してレポートを書くということをしている。大学教育とミュージアムがここまで連携できているところが他の土地にはない、今後ともしっかりと推進して欲しいと言われた。このようなことも大事にしていきたいし、今の大学生はほとんどテレビを見ないそうだが、ばけばけは見たいと言う学生も多い。ぜひ若者に見てもらい、反応を聞きたい。それから海外でも、日本で小泉八雲をテーマとしたドラマが始まることは注目されているようで、9月8日に大阪でアイルランドのテレビ局の取材を受ける。これを通じて、アイルランドの方にも関心を持って訪問してもらいたいと期待している。

5 閉 会